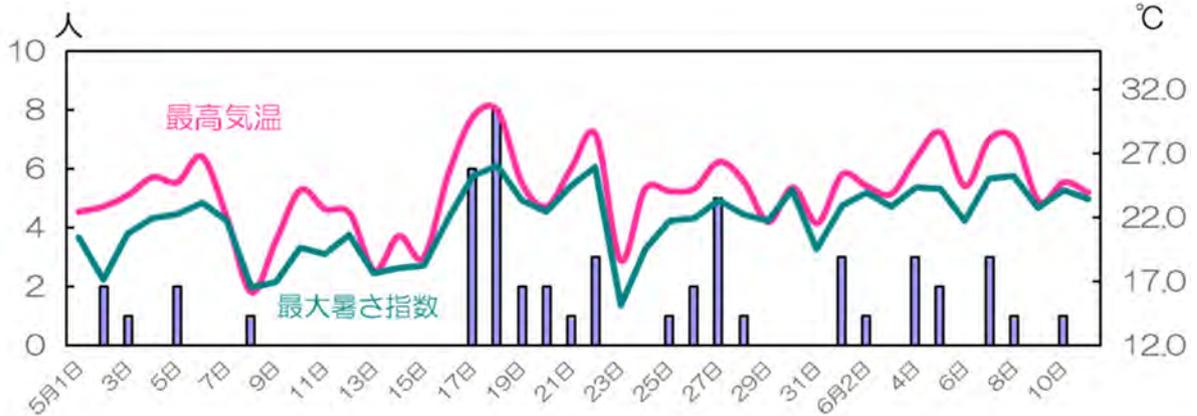


熱中症情報

＜搬送数＞

令和5年5月1日～6月11日までの搬送数（消防局データを使用）は、計51人（5月37人、6月14人）でした。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。



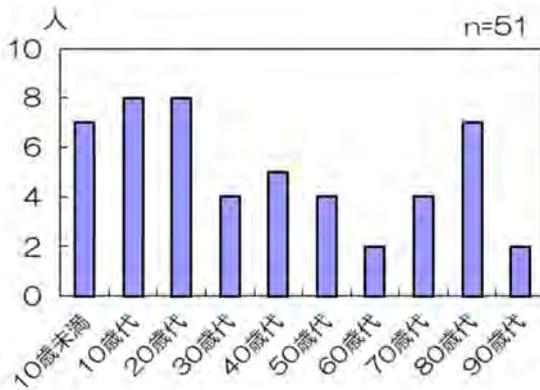
暑さ指数とは？ 人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

＜年齢別＞

10・20歳代が8人（15.7%）で最も多く、次が10歳未満・80歳代が7人（13.7%）でした。

＜発生場所＞

屋外66.7%、屋内33.3%で、屋外での発生発生が多くなっています。



＜重症度＞

軽症72.5%、中等症27.5%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が46.7%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

